

令和3年度 第3回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会 議事録

○日時

令和4年3月30日(水)10:00~12:00

○場所

オーテピア4階 ホール

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

高知市民図書館長あいさつ
議事録署名人の選出…田村委員

2 報告

第2期オーテピア高知図書館サービス計画の策定について

3 議事

- (1)令和3年度事業実績について
- (2)オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会について
(第1期オーテピア高知図書館サービス計画の総括について)
- (3)令和4年度事業計画について
- (4)その他

4 閉会

県立図書館長あいさつ

○議事録(※議事内容について事務局から説明後、意見交換)

議事(1)・(2)

(委員)

コロナも3年目に入り入館者等減少している中で、今お聞きした取組に感銘を受けた。新しい取組で、私たち頭の古い人間が考えてみても、デジタル化の取組、宅配、アプリなど本当にすごいと思う。本当に素晴らしい取組を聞かせていただいた。朝倉ふれあいセンターとしては、高知市の分館・分室も頑張っているのも、その辺りの支援もよろしく願いしたい。

(委員)

先ほどの説明ではあまり出てこなかったが、移動図書館と出前図書館の違いについて、出前図書館が巡回するのかわかったら移動図書館が出てきた。出前図書館というのは、たぶん県立学校などいろいろなところに行って何らかの方法で実施するものか？コロナで子どもも大変だが、出前、移動図書館に行くにしてもどのような点に気を付けているかというのがちょっと気にかかったので教えていただけたらと思う。

(事務局)

移動図書館というのは、県市がそれぞれ移動図書館バスを持っており、高知市は市内全域、高知県は県下でポイントを決め、バスの中に設置した本を貸し出すもの。
出前のほうは、色々なイベントなどで、そのテーマにあった本を司書が持っていき貸出しをするという取組となっている。

(委員)

今発表を聞いて、家で読んできた内容に加えて詳しく説明していただき、本当に内容が分かった。とにかく図書館の取組の幅の広さがすごいと思った。先ほど市町村の図書館が貧弱という言葉が何回か出てきたが、確かにそのとおりで、図書館というものが何を目的としてそこにあるのかということを知らないまま図書館を開いている市町村も確かにある。

そういった中で、私としてはいろいろな説明の中でやはり感銘を受けたのは、読書が好きな人のための施設というだけではないということ。では何かと言えば、高知県全体を考えると移住とか定住とか。もしくは今朝の新聞にも出ていたが、高校の課題解決、探究的な学び、義務教育のほうも生活、総合といった中で、高等教育では習ったことを商品化するような動きがどこの学校でも出てきている。そういった中で移住、定住先としてどんなところがあるのか。高知県に対する魅力を感じてもらえるだろうかということも深く考えた。

それからまた、やはり学業、知的情報といったところはやはり必要なもので、今後何を求めているかということと県や国の取組を考えながら、書籍とか情報電子のほうで辞書とかそういったものに活用して出していただけると、さらに活用ができるのではないかと。

最終的に、やはりこのオーテピアの取組を PR するならば、地域全体、県全体にできるサービス、オーテピアはこんなことしていますよというちょっとした動画などを各市町村の図書館や各学校に送るとか、そういうことをしていただけたら非常に取組が広まるのではないかと考えた。素晴らしいです。

(事務局)

県議会の知事提案理由説明を回覧し、必ず読むよう常々職員に言っている。知事提案理由説明の中には、産業だけでなく、教育、防災、様々な分野の直近の課題が凝縮されている。それを見てオーテピアは何ができるか考えるよう日々職員に話している。そういうアンテナを常に高くして、課題、現場のニーズを把握して図書館サービスの充実につなげていきたいと考えている。

先ほど貴重なご意見をいただいたとおり、やはりまだまだオーテピアのサービス自体の認知度が低い。サービスにもよるが、認知度が低いという課題が1期計画の中でもあったので、動画や漫画などさまざまな媒体を活用し、もっともっと県民、市民の皆様に PR していく必要があると考えている。

教育現場でもまだまだオーテピアのサービスが浸透していないということはよく理解しているので、『夢のかけ橋』の次号では、オーテピアの取組、計画について載せ、県内の学校や保護者の皆様にもご覧いただけるように準備を進めているところ。

(事務局)

色々なサービスをしてそのサービスが必要とされる方に届かないというのが一番大きな問題。先ほど PR するなら動画というお話があったが、本当に相手に合った情報提供方法を考えていかないとどんなにサービス内容を盛っても相手に届かない。2期サービス計画ではその点も中心に取り上げていく予定をしている。またいろいろなご意見をお願いしたい。

(委員)

先ほどのような案内とか情報提供の仕方というのは一般的なものののだろうか。動画によるいろいろな紹介等も多いが、図書館のサービスの一環としては多いと考えるか。

(事務局)

オーテピアは YouTube、ウェブ・サイト、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ブログを使っている。あと使っていないのは TikTok くらいかと思う。一部を使っている図書館はあるが全部を使っているところはおそらくない。こんなに使っているというのは

たいへんだが、すごい。

科学館があるので、動画など難しいことがあればアドバイスをしてくれたり手伝ってくれたりもする。

(事務局)

単なる新しもの好きではなく、本質的な情報のあり方として、やはりいろいろな手段を駆使できるというのはありがたいし、先ほど見て、ああそうか、こういう手があるのかという思いもあった。またアイデアを出し合って斬新な広報をお願いしたい。

(委員)

たくさんの方の有意義な取組をしていただいております。私自身、仕事でもたくさん本を借りるなどオーテピアを非常に活用している。やはりコロナ前と比べると、事前に自分で本を調べて予約をして取りに来て帰るといった感じで、ちょっと滞在時間が自分としても少なくなっていると感じる。そういう方が多いかもしれない。ゆっくり座れる場所も少し少なくなっている。コロナで滞在時間を減らそうと考えている方も多いいかもしれないと思う。

それから、本がやはり多すぎて探すのに非常に時間がかかる。頑張っで一応全部印刷して、この辺りにあるのだろうかを探す、それでも見つからないときは職員に聞いて助けていただいている。

職員の方も忙しく、ちょっと聞きづらいところがある。聞くと本当に親切に教えていただける。申し訳ないと思うが、やはり本の冊数が多いのでそこから見つけるのはなかなか素人には難しいというのは感じた。ちょっと聞きづらいなと思っている方はもしかしたら私のようにいらっしやるかもしれないと感じた。

ティーンズ・サービスが非常に充実していることがよく分かった。息子が今度中学3年生になるが、中学校に入った時からコロナで、普通の学校生活が送れないまま丸2年が過ぎた。その波で部活に入れなかったお子さんや休校が多かったのも、ゲーム三昧になって家でSNSにもどっぷりはまってしまうケースが結構多い。

さらに、不登校の子どもも周りに多く、悩んでいる保護者の方がいらっしやる。どこに相談していいのかなという相談も受ける。心の教育センターがあるよと紹介したりするほか、オーテピアにも行ってみたらどうかと言うが、オーテピアは人目が気になるとか、オーテピアに行っても何をしたいか分からないという声を聞く。

そういうところで、今後のサービス計画で、専門機関と連携しながら学びの場を提供するところでは非常に興味深く注目している。具体的にどういうことをしていくのか気になったし、ぜひこういう取組をしているんだというPRもしていただきたいと思った。

宅配サービスは私の知らない取組だった。どのあたりの地域まで配達をしていただけるのか教えていただきたい。

高知お花満開プロジェクトでは、エントランスにすごくきれいなお花が飾られているのをいつも見せていただいている。結構女性の間で話題にもなっていて、今日こんなにきれいなお花だったよと写真が送られてきたり、県外の方が、あっすごいなという風に見ている様子もよく見かけた。写真を撮っている方も結構多くて、このようにちょっとしんどい時期だからこそ、皆さんが心癒されている場所なのではないかと思う。

(事務局)

ティーンズ・サービスについて、これまでの協議会で何度か申し上げたが、高知県の不登校対策は積年の課題。このコロナ禍の中でやはり学校生活、日常生活で非常に多く制約を受け、そのような子どもたちが増えているのではないかと危惧している。それもあり、高知市の教育支援センターだけでなく、土佐市、香美市など市町村の教育支援センターとも連携して、支援

センターの方と保護者と子どもと一緒にオーテピアに行く図書館見学を実施するなどしている。図書館に来れば、多くの学び、学習のための資料があるので、オーテピアだけでなく市町村の図書館を巻き込んだ形で、そういった取組を進めている。

また、実際にオーテピアで昼間、制服を着て勉強している方もいると支援センターから聞いている。図書館はいつでも誰でも何時間でも使えるところなので、学校には行けないけれどもオーテピアで勉強することだってできるという居場所といった形でも図書館を活用してほしいと思う。

それと、楽しいこともしたいということで、司書と一緒に本を紹介するポップづくりのようなイベントを開催するなど、まだ手探りの状況だが、あまりハードルを上げては子どもたちが引いてしまうので、関係機関と連携していろいろな情報交換をしながらまずできることから始めようということで進めている。

オーテピアだけですべて解決できるとは思っていないが、オーテピアに行っただけという話をしていただければ、連携している関係機関におつなぎするレフェラル・サービスもできるので、ぜひ気軽に相談いただければと思う。

(事務局)

高知お花満開プロジェクトの主催は農林水産部。もともと市役所の本庁舎で開催していたが、本庁舎のほうは人数が少ないうえ、庁舎の中が暗いのでオーテピアのほうがいいだろうということで、私どものほうで開催させていただいた。仰るとおり非常に好評だった。

毎回、日本の生け花もあれば、フラワーアレンジメントがあったりと、テーマを設けて花を見ていただけており、入り口が華やかで良かった。次年度も続けられたら一番いいが、今回はコロナ関係の支援という中での事業だった。そういう意見があったことを担当課の方に伝えておく。

(事務局)

宅配サービスは基本的には高知県内。例えば、高知県出身で東京在住の方が、ご両親を呼び寄せたものの外に出られないという状況にまでは貸出しができない。東京であれば、例えば調布市や目黒区だったら宅配サービスを実施しているかもしれない。全部の図書館が実施しているわけではないので、その問題点は正直あるが、今のところは原則高知県内を対象にしている。

(委員)

皆さんが仰ったように、だんだん膨れ上がるサービスというような印象を持っている。携帯電話やパソコンを使って図書が届くというような利用の仕方ができるサービスは、自分たちが小さい頃はちょっと思いつかなかった。もともとオーテピアに来館できたら十分なサービスは受けられると思う。

自分は高知市に住んでいるので、頻繁に来ようと思ったら来ることができるが、例えば郡部の方がよその図書館で同じようなサービスが使えたらもっといいだろうなという思いが、地域格差というようなバリアフリーの意味ではちょっとあるかな、という部分がある。このように良いお話を聞いて特に思う。

ここは高知声と点字の図書館と一緒にしているので、点字の図書館にお願いして、そのまま図書館に行って音声や読書ができるサービスがあるということになると、範囲が自分たちで分からない部分が多少出てくるかと思ったりもする。構成上、図書館が分かれているというのは十分理解ができるが、利用者にとってはそれほど重大なことではなく、どこに行っても同じように使えるというのがベターかと思う。

また、読めるけど書けないということが結構ある。

パソコンで打ってしまうと、ちょっと難しい字もすぐ変換される。本の文章は読めるが、いざ書こうとなったら何だっけということがある。昔のように図書が読めれば書けるというイメージが、ちょっと自分も含めてなくなってきているかと思う。

書くことが楽になってしまっているのも、図書館とは関係がなさすぎるかもしれないが、字を覚えるというモーションがあればいいなと最近思う。自分がたまに文章を書くときに思い浮かばない文字がいっぱいあって悩ましいときがあるので。

全体的には皆さんが仰ったように、サービスがすごく充実してきて、考えられないほどバリアフリー的な図書館になってきていると思う。これからも頑張ってもらいたいと思う。

(事務局)

声と点字の図書館とオーテピア高知図書館の境について、分かりづらいが、声と点字の図書館はどちらかという生活密着型の支援というところがある。それから、点字といっても視覚障害の方だけではなく、見えるけれども文字認識ができない方もおられる。高齢になっていくなかなか小さい文字が見えなくなってくるという意味では、オーテピア高知図書館にも、声と点字の図書館にも大活字本というものを構えてあり、どちらの本を読んでも構わないと思う。

例えば、障害のある方が、持ってきた手紙を読んでもらいたいといったサービスになると、これはオーテピア高知図書館のほうではなくて、声と点字の図書館のほうの生活支援という中で支援をする方になる。分からない場合はご相談をいただき、適当なほうをご紹介します形を取らせていただきたい。

(委員)

今話を聞いて、組織として我々は県と市という行政区分という視点から分けているが、利用者の方から見ればその辺りにバリアがあってはいけないので、そういう面で組織運営としては本当の意味でのバリアフリーであっていただきたいと思う。非常に重要なご指摘なので、今後の運営で意識していただきたい。

それから、文字を書くお話については、私もその通りだと思わざるを得ない年齢だが、やはり図書館、書物というと、文字言語の問題だが、読むほうは何とかなっても、実際に書類を書くとか、特に小さい字を書くことはほとんど無理だし、細かい線が1本か2本か思い出せないところはごまかしてしまって、最後はひらがなで、という経験は私にもある。

ですからその辺も広い意味での情報伝達に係るスキルという面でも、サービスが増えるばかりだが、相談とかこういうところに気を付けるとか、こういうのがヒントになるんじゃないかということ、豆知識とかいうものでも構わないが、まとめられたらよいのではないか。これは例えば役所の書類書きなど何かとあるし、こういうサービスを利用すれば画面タッチできますよなど、利用者の便宜を図るといって、情報との接し方という面から、また含めて考えていただければと思う。

(委員)

毎回、報告を聞くたびに、感動している。すごく質の高い仕事をしているなと思うし、皆さん貪欲に仕事に誠実に向かわれていると感じる。今日の報告を聞いて思ったことは大きく2点ある。

一つはオーテピア高知図書館とは何か、図書館とは何かということに、常日頃から皆さんが問いかけをしながら仕事をされているということがすごく伝わってきたところ。

この計画づくりをするときに私もちょっと参加させていただいたが、単一的な機能ではなく、複合的にあるいは多様性のある場にしようということで、この柱、幹を作っていたと思うが、そういう多様性のある計画に魂を込めて進めている結果、単に計画が多様であるだけではない

く、立案でもなおサービスを分化させていったり多様化させていったり、そういったところを努力するというような姿勢を皆さんお持ちになっているところがすごく感動した。

図書館とは何かということから言うと、つまり図書館を何々とみなすというような regard A as B みたいなそういう話だと思うが、今回の報告の中には、Haretoke というメディア、シェアオフィスのほうに登録されているのも、あるいは普通だったら図書館をオフィスにみなすなんていうことはまずない考え方だと思う。そこに自らアウトリーチ、まさにアウトリーチだと思うが、この媒体に載せてほしいということをも分働きかけたんじゃないかと思います。例えばメトロミニッツの取材を受けられて、それはつまり移住促進センターとしての機能を果たしているということだと思うので、A を B とみなすという発想を常日頃から皆さんやられてるなというところを、ひとつ感想として持った。

広がっていくとしんどくなると思うので、前にも申し上げたが、捨てるということ、取捨選択もぜひ訴えたいと思う。

あともう一つは、ビジネス関係の話になってくるが、私も土佐 MBA、土佐まるごとビジネスアカデミーのほうで講師を務めさせていただいており、その中で受講生の方からよく聞く感想として、土佐 MBA での学びというのは個人としてはよく学べたというようなことをおっしゃる方もいる。そのあと会社の中で学びを共有したいが、なかなかそこができない。どうすればいいでしょう、と。じゃあ共有したい人を MBA に連れてきたらどうですか。いや、それはそんなにみんな暇じゃないんで、みたいなそんな話になったりする。

そういう悩みに、解決の一翼となるのが多分オーテピアの本とかメディアとかそういうところなのかなというふうに思う。今、例えば行政関係で言うと、地方の図書館に企画展示用のセット資料を送付したり、あるいは関係団体に団体貸出をしたりしていると思う。法人単位とかで、例えば人材育成に意欲を燃やす企業さん向けのセットといったものを送るとか、社内教育として、社内にいる人たちが本に触れる機会を増やしていくようなことができれば。特に高知の働く人たちは本を読まない人が多いので、ビジネスに関係するような本が目に触れる機会がなければ意欲が出ないので。セレンディピティという話になると思うが、社内でのシステムにできるので今日みたいなフォローができたらいいかなという風を感じた。

(事務局)

たくさんのご提案ありがたい。まず、最後に話のあった法人単位での本の貸出し、団体貸出はすでにできる仕組みになっている。例えば、外国人材を抱えていらっしゃる企業様であったり、法人でいうと県の組織だけではなく、観光コンベンション協会であったり中小企業団体中央会であったり、色々な団体に本の貸出しができるようになっている。ぜひ MBA で学んだことをさらに深めていく、広めていくところとして、オーテピアの資料を、データベースをご活用いただけるよう PR をしていただければと思う。

(事務局)

先ほど報告したグラフの中だと、実は団体貸出はまだ構成比率が確かに少ないので、団体貸出を活用すれば仰ったように本に触れる機会は増えると思う。その場合には複本、同じような本が何冊もいるというような場合もあったりするので、かなり費用が掛かる場合もあるが。ただ、これはオーテピアではそんなにできないが、例えば東京の品川区の図書館なんかは、どちらかという子ども関係だが、団体貸出センターというのを持っていたりする図書館もあったりする。そこまであればできるが、ちょっと今のところなかなか費用的に難しいところがあるが、できることはかなりあると考えている。

(委員)

第2期計画策定、とても立派なものできたと思い、本当によかったと思っている。オーテピア

高知図書館の土台作りともいえるこの5年間の取組の経過の中で、コロナの影響も受けながらも見えてきた成果や課題が、今後の5年間のより具体的な取り組みにつながっていったのではないかと思った。

私は最後の2年間のお手伝いをさせていただいたが、図書館について、オーテピアの本当の力について知らなかったことがたくさんあった。まだ十分理解できたとは言えないが、やっと図書館というのはこういうところなのかと思ったのが正直なところ。家族の中で話題になったとき、まだ私はうまく伝えることができない。

それで、もっとみんなにも知っていただきたいということ、PRということではもう全てのことに通じていることなので、私のような人たちがまだいるのであればもっともっと知ってもらいたい、活用してもらいたいと思っている。

第1期サービス計画期間ではコロナの感染が、子どもたちを取り巻く環境にも大きな傷を残しており、さまざまな葛藤の中で子育てを余儀なくされている家庭も少なくないと思う。この2年間ずっと言い続けたことだが、やはり子どもたちの未来のためにも、図書館として今後もまた行き渡るサービスの提供に続けて取り組んでいただきたいと思っている。

(委員)

もともとオーテピアというのはセーフティネットとしての機能を非常に重視して設計されており、そういった意味で本当にセーフティネットになったなと思っている。

特に、来館者数は、イベントが毎週できたりするような状況には全くなかったが、貸出日数は減っていない。やっぱりその機能として完全に機能していたという意味では本当に、コロナに間に合っていたことがすごく大きかったんだろうと思う。

特に、委員から、子どもの教育など、コロナでなかなか対面での授業を受けられなかったという話も出てきたが、その中でもこのオーテピアがあるということの大きさというのを感じている。このような状況からオーテピアの活動を工夫してきたことに敬意を表したい。

特に、コロナでGIGAスクールというか、各児童生徒に端末が行き渡るような状況になってきた中で、電子書籍にも従前から力を入れていただいている。それが、今後ともどんどん実態として広がっていくと思う。今はGIGAスクールで、学校の中あるいは自宅で端末が使えるので、電子書籍を通じた読書環境の広がりも出てくるかなと、非常に期待している。

先ほどお話があったビジネス系の課題解決支援サービスというところ。それと、もう一つ利用者系のサービス、ティーンズ・サービスとか子育て支援サービスというものもあった。これが両方とも、数量という意味ではこれからのところもあるが、それぞれの問題解決に到達しているかなという印象を受けた。特に、漫画のチラシにもあるように、それぞれの領域の困った方について、あるいは相談した方について、今後につながるようなシステムづくりができていくという意味でサービス計画の1期は非常に順調に進展しているだろうと思う。2期は、領域の拡大や数を増やすということになっていくんだろうと思うが、こういういいことがあるよということを県民、市民の皆さんにお伝えできるような状況までこぎつけたというのは非常に素晴らしいと思う。

特にティーンズ・サービスや子育てサービスの話でもあったが、健康を通じた連携や教育支援センターとの連携がある。発達障害の方へのサポートの漫画事例を紹介していただいたが、そういう背景を持って取り組むティーンズ・サービスと、持たずに取り組むティーンズ・サービスでは奥行きが全然違うということがある。ティーンズ・サービスの話に出てきたが、9割以上借りられているということもあり、相乗効果で非常に充実したサービスが展開できていると思う。

先ほど話に挙げた動画は、取り入れているところが少ないということだったが、私の評価軸はそこではない。よく行政が映像制作プロダクションと動画を作ると、明日も知れぬような俳優が出てきて、最後に本が読みたいという動画になると思う。先ほどの動画では職員が「さ

あ借りてみようか」と気軽に言っているところが、非常に現代的でもありユーチューバーみたいな感じもして素晴らしいなと思った。

職員は大変だが、いくらでも PR 動画は作ることができる。次からぜひ PR をという強いお言葉もあった。病院で入院していても本が読める。これは、実は基本構想検討委員会から構想としてあり、年齢を重ねて長期療養や入院になっても読書環境があるということの強みが、今後ますます重要になってくるかなと思う。

サービス計画の検討も1期も終わるといところだが、基本的には合築で良かったと思う。

先ほど、オーテピアのような大きな図書館ができることで分館分室の貸出しが減る危惧もなくはなかったという話があったが、そこは全く心配していない。高知市にはすごい伝統がある。昭和 35 年から分館システムみたいなのが高知市民図書館にはある。分館分室システムのただ唯一の欠点は、分館分室に予算がってしまうので本館を小さくせざるを得ないこと。

そこに、こんな強力な本館をつくったら何が起るかとか期待していたが、期待に違わぬ大活躍だ。サッカーでいえばソートップ体制。オーテピアで 100 万冊、分館分室で 110 万冊貸している。他府県がここへ見に来て真似できない。やはり昭和の時代から連綿と積み上げてきた分館分室システム、移動図書館システムにオーテピアがのったときの爆発的な力があると私は思っているの、オーテピアだけをコピーしても、ほかの県ではこんなに素晴らしいことにはならないだろうと考えている。

未来志向でいくと、委員が仰ったオーテピア近くの人はいいいですがといところは、実は高知県立図書館の課題でもある。図書館サービス計画推進委員会でもこのような意見が出て大きな課題であるという議論をした。その意味でも合築ができたということは、オーテピアがうまくいって、こうすればできるというのを高知市以外の市町村にも示すことができれば。私がいる香美市もそうだが、新しく図書館を作ろうという話になったことは、今後につながる成果でもあるし、合築というかたちで緊密な連絡をとったらこんないいことがあるということをお示してきたことも非常に大きかったと感じる。県内あまねく図書館サービスを展開するにはどうしたらいいかというのは、2期へ向けた課題かなと思う。

それから、取組が非常にたくさんある。PR もしなければならぬが、サービス計画推進委員会の中でも議論があったとおり、限られた人数で全力で取り組んでいる中で、体力的なことも今後考えていただき、オーテピアがより良く発展をしていけばいいがと思っている。

(事務局)

まず 1 点目として、オーテピアの課題解決などの取り組み、そのノウハウを、県内の特に新館建設予定の市町村図書館にきちんと伝えていきたい。それが、県立図書館としての2期計画の大きなミッションだと思う。

人的・物的支援にはもちろん継続して取り組む。例えば土佐市、香美市とも外国人材が急増している。当館が、県の戦略に位置付けたのは、当館で取り組むだけでなく、戦略に位置付けることによって市町村も動きやすくなるということがある。オーテピアで取り組んでいることを土佐市とか香美市とか、これから新しくできる市町村図書館が地域の核となるよう、地域版オーテピアのようなかたちになるように、精一杯支援をしたい。

地域の課題はそれぞれ違うが、オーテピアが培ってきたものを伝えることで、必ずや課題解決のヒントが得られると考えている。

2 点目として、全方位的な図書館サービスを展開している。館長講話で職員に話したが、より効果的にやること、オーテピアの職員だけではマンパワーが限られるので外の力を借りること。これからもっと外の力を巻き込んでいかなないと広がらないという話をした。

次期計画では、サポーター制度というものを見据えて、人的、金銭的な外の力を借りられるようボランティアやサポーターの仕組みをきちんと作り、外の力を借りることによって館内の司書の業務を効率的にできるような形にしたい。専門性を持った司書がやるべきことのほか、

司書でなくてもできることがある。そういうものを外の方に力を借りて回していくかたちに来てきたらなど考えている。

(事務局)

分館分室について話をさせていただく。高知市の分館分室はもともと市町村合併する前の役場や図書館だったところがほとんど。オーテピアが合築したことで文化施設としてすべてが良かったかいうと、正直そうではないところもある、オーテピアで借りた本を分館分室で返せるシステムになり、職員の業務がべらぼうに増えたこと。一方で、やはりシステムを通じてオーテピアの本も取り寄せできるし、以前からだが高知市合わせた膨大な量の資料が借りられるようになった。特に高齢者の方がわざわざオーテピアに来なくても分館室で受け取りができるというのは、これは他市町村の図書館も同じことだと思う。

分館分室の独自性を出せないかという話をしている。例えば朝倉分室なら、すぐ隣に高知大学があり、学生も分室に来ている。では学生向けにはどんな本がいいかという部分で選書をしてほしい。春野地区には、地域の伝承を紙芝居にする事業がある。地域の子どもたち、学校との協働の中でそういったものを伝えるところでの資料収集もしてもらいたい。

布師田であれば、書道の大家である田中白歩さんの出身地でもあり、田中白歩さんの本を集めたコーナーもある。オーテピアとは違う独自性を出していくことが、オーテピアとの差別化へもつながる。

オーテピアは本がたくさんあって探すのに苦労するという話があった。分館分室は面展示に注力しており、「あっ、こんな本があるんだ」と分かるように心がけている。本館とは違う本を探す良さもあり、独自性を出してやっていただけたらと思う。本館以上に地域の人々とのつながりがあり、こういう人にはこんな本がいいのではないだろうかというような相手に届くようなサービスができる。

(委員)

いろいろな意見を承った。よく頑張っていると思う。コロナ感染が収束していないが、なんとかそれに耐えて活動を続けている。今度は世界の情勢がどうなるか分からないというところでもない大波と荒波をくぐらねばいけないだろうと思われる。

その中で図書館活動、特に情報機能を担った図書館はどうあるべきかということは模索を続けざるを得ない。実力を十分に発揮いただいて、なんとか不安定な世界の中でも安定した活動が続けられればいいなと願っている。

議事(3)

(委員)

これは、私の個人的な感想で一つだけ、主要行事のところを見て、ふと思いついたこと。例えば、先ほどもティーンズの関係の話とかオーテピアの活動の話があったが、できれば今後もそういうティーンズ部とかオーテピアの企画に基づくようなそういう行事があれば、若い方たちのいろんな励みとか広報になるんじゃないかと思う。

なかなか予定に組み込むのは難しいかもしれないが、せっかくなので形のあるティーンズ通信等以外にも具体的なこと、目に見えるかたちでのイベントというような形があればさらに良いのではないかという感想を持った。

12:00 終了

令和3年度 第3回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿			
		令和4年3月30日(水)	
○委員		オーテピア 4階ホール	
役 職 等	氏 名	備考	
高知市立大津小学校長、高知県学校図書館協議会会長	岡 林 宏 枝	欠席	
高知市朝倉ふれあいセンター長、元小学校長	秋 森 眞 五		
横浜小学校区青少年育成協議会 代表推進委員 元高知市青少年育成協議会理事	西 尾 敦 子		
津野町教育長	久 寿 久 美 子		
第四次高知県子ども読書活動推進計画策定委員	花 房 果 子		
元高知市保育園長	松 崎 加 寿 美		
特定非営利活動法人こうち企業支援センター理事長	田 村 樹 志 雄		
高知大学特任シニアプロフェッサー	加 藤 勉		
高知工科大学情報学群長	篠 森 敬 三		
特定非営利活動法人高知市身体障害者連合会会長	中 屋 圭 二		
○事務局			
所 属 等	職 名	氏 名	備考
高知県立図書館	館 長	山 崎 生	
	副館長	上 岡 和 代	
	専門企画員(司書育成・サービス推進担当)	山 重 壮 一	
	企画調整課長兼チーフ(企画調整担当)	岡 村 祐 人	
	チーフ(総務担当)	浅 川 美 佐	
	チーフ(図書利用担当)	谷 岡 祥 子	
	チーフ(支援協力担当)	尾 形 千 晶	
	企画調整課 司書	上 岡 真 土	
	企画調整課 主任	溝 渕 里 奈	
	企画調整課 司書	鈴 木 章 生	
高知市民図書館	企画調整課 司書	宮 本 直 美	
	企画調整課 司書	戸 莉 綾 子	
	館 長	森 岡 眞 秋	
	副館長	原 真 二	
	図書利用担当管理主幹	武 井 一 仁	
	主幹図書利用担当係長事務取扱	西 内 久 代	
	主幹図書利用担当係長事務取扱	門 田 麻 香	
高知市 図書館・科学館課	主幹資料管理担当係長事務取扱	弘 瀬 聖 子	
	管理担当係長	横 川 良 明	
	課長	高 石 敏 子	